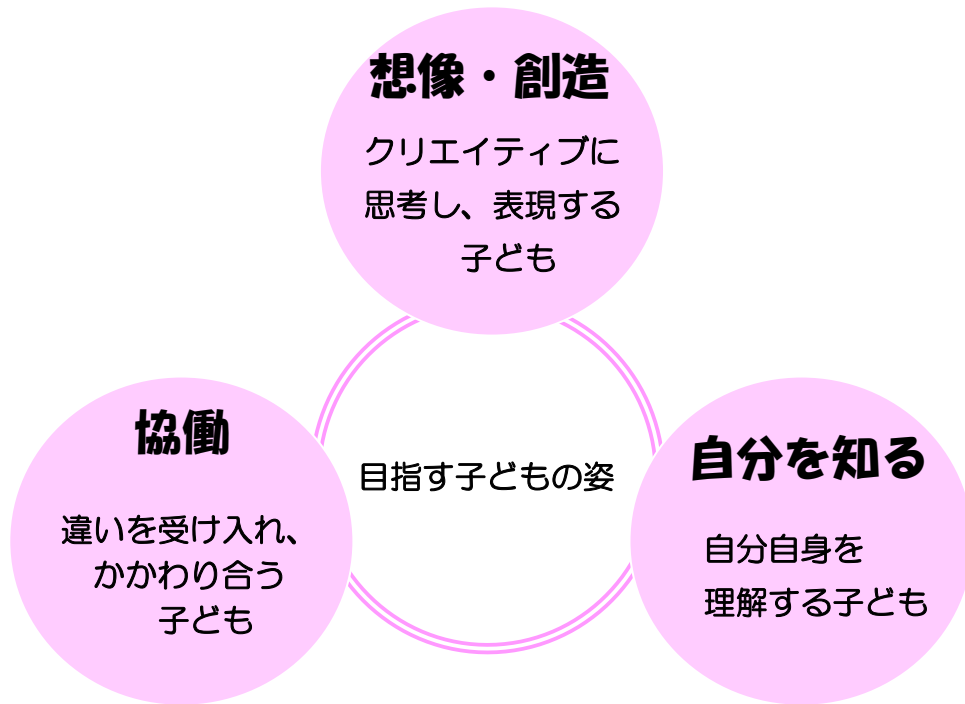




未来に生きる力をはぐくむ

# 安芸高田市学力向上戦略



令和2年3月

令和3年3月一部改訂

安芸高田市教育委員会

## はじめに

近年の学校教育に対するニーズの変化や課題の複雑化・多様化の中で、学校の果たす役割は変化してきています。子どもたちに未来社会を切り拓くための資質・能力を育成するためには、新しい時代を見据えた教育を創造する必要があります。

子どもたちが生きていく未来社会は、Society5.0（超スマート社会）と言われ、IoTによって、全ての人や物がつながり、様々な知識や技術が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、課題や困難に立ち向かうことができる社会が実現すると言われていています。また、小学校では2020年、中学校では2021年に新たな学習指導要領の全面実施という大きな節目を迎えます。子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することや「社会に開かれた教育課程」によって、学校と地域社会が連携・協働しながら子どもを育むという方向性が示されました。

また、子どもたちを支える教師には、子どもたちの学びの変化に応じた資質・能力を有し、多様性があり、変化にも柔軟に対応していくことが求められています。

こうした動向を踏まえ、安芸高田市教育委員会では、未来社会に生きる本市の児童生徒が、変化を前向きに受けとめ、社会の創り手として、自立的に生きることができるよう、安芸高田市で育てたい目指す子どもの姿や目指す姿にせまるための施策を見直し、「安芸高田市学力向上戦略」を改訂することとしました。

全ての学校で、本戦略を踏まえた取組を組織的に進めていきたいと思えます。また、令和2年度から、全ての中学校区において、学校運営協議会制度を導入します。保護者・地域の皆様には、学校と一体となって「安芸高田協育」を進めていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年3月

安芸高田市教育委員会 教育長 永井 初男

# もくじ

第1章	学力向上戦略の改訂にあたって	
1	目指す子ども像	1
2	目標指標	2
第2章	今後取り組む施策	
施策1	「学び合う」授業づくり	5
	(1) 安芸高田市授業づくりスローガン	
	(2) 学習者の学びに視点を置いた オール安芸高田研究協議スタイルの推進	
施策2	個別最適な学びの推進～多様な学びの場の提供～	14
	(1) 特別支援教育の充実	
	(2) 不登校児童生徒への支援	
	(3) 日本語の習得に困難のある児童生徒への支援	
施策3	ICTの活用	17
	(1) ICTを効果的に活用した授業づくり	
	(2) プログラミング教育の推進	
	(3) 情報モラル教育の推進	
施策4	「未来チャレンジ 探究学習」の充実	18
第3章	家庭・地域・学校の連携による教育	19
	～コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を通して～	

# 第1章 学力向上戦略の改訂にあたって

## 1 目指す子ども像

子どもたちが生きていく未来社会は、予測不能な変化の激しい時代です。決まった答えのない問題に柔軟に対応していく力が求められています。その中で、変化を前向きに受けとめ、様々な人とつながりながらアイデアを生み出し、課題を解決していく力を子どもたちに育てていくことが重要です。安芸高田市で育つ子どもたちが、このような姿を実現し、安芸高田市の創り手として自立的に生きぬくことができれば、安芸高田市を新たな明るい未来へ導くことができると考えています。

そこで、目指す子ども像を次のように設定しました。子どもたちが、安芸高田市で育つことに自信と誇りを持ち、このような力を身につけていくことができるように、全ての学校で取組を進めていきたいと思えます。

### 〔想像・創造する力〕 クリエイティブに思考し、表現する子ども

たとえば こんな姿



- 「こんな見方もあるのかな」「なぜこうなるのだろう」と、問いをもちながら想像力を働かせる
- 常識にとらわれず新たなアイデアを生み出したり、自分で考えたり選択したりする
- 自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように、工夫しながら伝える

### 〔協働する力〕 違いを受け入れ、かかわり合う子ども

たとえば こんな姿



- 困ったときに他人に頼ることができる
- 相手の特性を理解し、価値観の相違を受け止める
- 考えの相違を踏まえながら、思いや考えを出し合い、課題を解決する

### 〔自分を知る力〕 自分自身を理解する（自己認識）子ども

たとえば こんな姿



- 自分の性格や得意なこと、苦手なこと、どんなことに興味・関心をもっているかなどがわかる
- 自分が学んだことを振り返り、できるようになったことや分かったこと、やりたいことややらなければならないことがわかる
- 「自分だったらどうだろう」と自分事として考える（当事者意識）

## 2 目標指標

※（基礎・基本）は広島県「基礎・基本」定着状況調査児童生徒質問紙、  
（全国学テ）は全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙のことを表しています。

目標指標	現状値（%） （令和元年度） （【】内は県平均比較）	目標値 （%） （令和6年 度）
<p><b>クリエイティブに思考し、表現する</b></p> <p>○「授業では、解決しようとする課題について『なぜだろう』『やってみたい』と思います」（基礎・基本）</p> <p>○「授業では、解決しようとする課題について『たぶんこうではないか』『こうすればできるのではないか』と予想しています」（基礎・基本）</p> <p>○「5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいたと思いますか」（全国学テ）</p> <p>○「5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」（全国学テ）</p>	<p>Ⓐ90.2【+9.5】 Ⓑ77.9【+6.6】</p> <p>Ⓐ90.2【+5.8】 Ⓑ76.0【-0.2】</p> <p>Ⓐ89.8【+10.7】 Ⓑ81.8【+3.8】</p> <p>Ⓐ75.0【+9.6】 Ⓑ73.2【+13.5】</p>	<p>Ⓐ95 Ⓑ80</p> <p>Ⓐ95 Ⓑ80</p> <p>Ⓐ90 Ⓑ85</p> <p>Ⓐ80 Ⓑ75</p>
<p><b>違いを受け入れかかわり合う</b></p> <p>○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」（全国学テ）</p>	<p>Ⓐ86.7【+9.5】 Ⓑ89.4%【+12.0】</p>	<p>Ⓐ90 Ⓑ90</p>
<p><b>自分自身を理解する</b></p> <p>○「自分にはよいところがあります」（基礎・基本）</p> <p>○「自分のよさは、周りの人に認められていると思います。」（基礎・基本）</p>	<p>Ⓐ77.7【-2】 Ⓑ79.3【+5.1】</p> <p>Ⓐ71.6【+4】 Ⓑ74.6【+8.1】</p>	<p>Ⓐ85 Ⓑ85</p> <p>Ⓐ85 Ⓑ85</p>

目 標 指 標	現 状 値 (令和元年度) (【】内は県平均比較)	目 標 値 (令和6年 度)
<p>○「学習の振り返りをするときには、『どこまで分かったか』『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています」 (基礎・基本)</p> <p><u>安芸高田に自信と誇りをもつ</u></p> <p>○「自分の住んでいる地域のことが好きです」 (基礎・基本)</p> <p>○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」 (全国学テ)</p>	<p>① 84.2【+14.2】 ② 69.6【+1.1】</p> <p>① 95.8【+5.7】 ② 83【+0.4】</p> <p>① 80.1【+20.1】 ② 51.6【+4.7】</p>	<p>① 90 ② 75</p> <p>① 100 ② 85</p> <p>① 80 ② 65</p>
<p><u>全国学力・学習状況調査</u></p> <p>《 小学校 》 国語</p> <p>算数</p> <p>《 中学校 》 国語</p> <p>数学</p>	<p>①正答率60%以上の児童生徒の割合 ②正答率40%未満の児童生徒の割合</p> <p>① 67.9% ② 7.1%</p> <p>① 62.2% ② 6.6%</p> <p>① 90.4% ② 4.0%</p> <p>① 59.0% ② 12.1%</p>	<p>① 80% ② 前年度を下回る</p> <p>① 80% ② 前年度を下回る</p> <p>① 90% ② 前年度を下回る</p> <p>① 65% ② 前年度を下回る</p>

## 第2章 今後取り組む施策

### 施策1

#### 「学び合う」授業づくり

「学び合い」の授業をとおして、全ての児童生徒の主体的な学びを保障する。目指すのは、全ての児童生徒が、安心して「分からないことは分からない」と言える関係の中で、仲間とともに関わり合いながら深く思考し、本時のねらいを達成する授業である。このことに取り組む。

- (1) 安芸高田市授業づくりスローガン
- (2) 学習者の学びに視点を置いた、オール安芸高田研究協議スタイルの推進

### 施策2

#### 個別最適な学びの推進 ～多様な学びの場の提供～

児童生徒の個々の状況や興味・関心に応じた学びの場の提供を進める。全ての子どもにあらゆる教育の場で実態に即した支援を提供する。

- (1) 特別支援教育の充実
- (2) 不登校児童生徒への支援
- (3) 日本語の習得に困難のある児童生徒への支援

### 施策3

#### ICTの活用

全ての子どもたちの力を最大限に引き出すため、ICTを効果的に活用した授業づくりを行う。発達段階に応じたプログラミング教育や遠隔教育等を展開する。

- (1) ICTを効果的に活用した授業づくり
- (2) プログラミング教育の推進
- (3) 情報モラル教育の推進

### 施策4

#### 「未来チャレンジ 探究学習」の充実

探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自分事として考え、主体的に判断・選択し、人とつながりながら課題を解決する力を育てる。子どもたちがしっかりと現実を見つめ、実生活、実社会の「答えがない問い」に本気で取り組む学習を進める。



## 施策1 「学び合う」授業づくり

教師主導の教え込むだけの授業では、子どもたちにこれからの社会を生き抜く力を育成することはできません。授業の主体である子どもたち（学習者）中心の授業に転換することで、教師自身の授業観を変えていくことが重要です。全ての子どもが参加できる授業をつくりま

### 授業観の転換

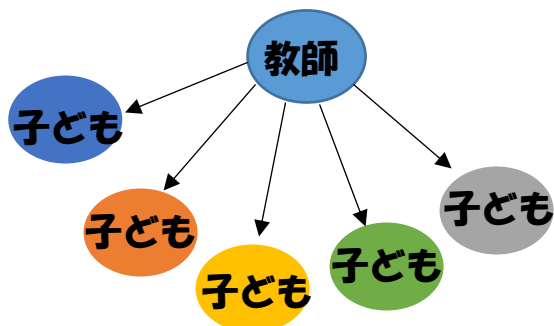
授業は、子どものためのもの！ 授業の主役は子ども！  
「教師主導の授業」から「学習者中心の授業」に転換！



何を変えるの？

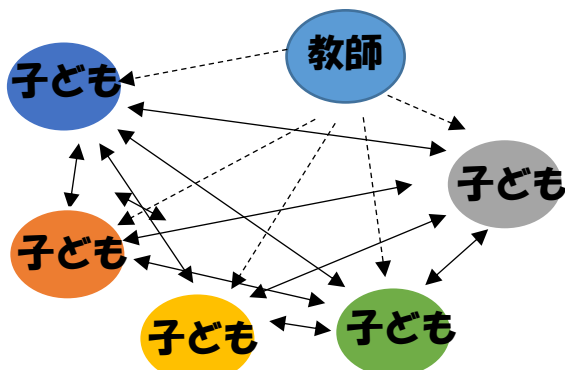
- ☆子どもの見方を変える
- ☆子どもとのかかわりを変える
- ☆何を育てるのかを変える

#### 教師主導の授業



一部の子どもしか参加できない授業

#### 学習者中心の授業



すべての子どもが参加できる授業

どう考えたらいいの？

どんどん進んでいってわからないよ。

ここからわからないんだけど、どうしたらいいかな

それはね、この考えを使って見たらどう？





## 今こそ 大切にしたい 「学び合い」きほんの(き)!

子どもの間違いや分からなさは、学びの深まりをもたらす「宝物」です!

### 「学び合い」で目指す子どもの姿

- 友達の思いや考えを最後まで聴く。(まずは一端受けとめる)
- 相手の発言に反応する。
- 分からないときは、友達に聞く。
- 間違いを大切にする。
- お互いに依存し合い、応え合う。

### 「学び合い」を支える教師の姿

- 子どもを信じる。
- 困っている子どもの分からなさに寄り添う。
- 子どもの目線に立つ。(子ども理解につとめる)
- 子どもの声を傾聴する。
- 教師の役割は「聴く つなぐ もどす」

人は人を介してしか学べない。だから「学び合い」が必要なんだよ。

### ◎「学び合い」とは

ペアやグループなどの少人数で対話することです。

- 互いの考えを聴き合うことが第一です。
- 全ての子どもの考えを聴こうと意識することが大切です。
- 考えをまとめたり、ある特定の考えに絞ったりしようとしません。
- 互いの考えを聴き合い、すり合わせることにより、一人一人が自分の考えに磨きをかけて深めていくことを目的とします。



### ◎教師の役割「聴く・つなぐ・もどす」とは

#### ○聴く

- ・子どもの声に耳を傾ける
- ・子どもの表情やしぐさから思いを察する

#### ○つなぐ

- ・子ども同士の発言、考えをつなぐ
- ・子どもと教材をつなぐ

#### ○もどす

- ・子どもへもどす
- ・教材やめあてにもどす

## (1) 安芸高田市授業づくりスローガン

安芸高田市の教職員は、「安芸高田市授業づくりスローガン」を掲げ、授業づくりに取り組みます。学校では、このスローガンのもと、より具体的な取組を設定し、実践していくこととします。

**あ**

**愛情のある授業をつくります**

教育活動すべての土台は、子どもに対する深い愛情

**き**

**基礎・基本を習得し、  
活用する授業をつくります**

活用までを意識した授業づくり

**た**

**対話し、学び合える集団を  
育てる授業をつくります**

子ども同士の対話、子どもと教師の対話、  
課題との対話で深まる学び合い

**か**

**考えが深まる  
授業をつくります**

疑問や発見は宝物 思考を深める問いづくり

**た**

**互いに見合い、学び合って、  
授業をつくります**

オール安芸高田研究協議スタイルでチャレンジ！！



## 愛情のある授業をつくります

～教育活動すべての土台は、すべての子どもに対する深い愛情～

### 教師の心得

- 1 一人ひとりの子どもの学びをしっかりと見取る。子どもの声に耳を傾ける。
- 2 子どもを褒める。認める。勇気づける。励ます。
- 3 子どもを信じる。



### 愛情のある言葉かけ

○結果だけでなく、姿勢や過程を認める言葉かけ

- ・一生懸命やっていたね。
- ・前よりも～なったね。
- ・あなたが～していて、私も嬉しかったよ。など

○失敗を受け入れる言葉かけ

- ・残念そうだね。
- ・～まではできているよ。
- ・次はどうしたらいいだろう。

○自信を育てる言葉かけ

- ・よく考えたね。
- ・あと2～3行付け加えるといいね。
- ・なるほど。いいね。

### 愛情のある言葉かけポイント

- ・子どものプラス面を見ること。
- ・その時、その場で、具体的に！
- ・言葉＋表情（笑顔）や態度（握手、バンザイなど）を加える。





## 基礎・基本を習得し、活用する授業をつくります

～活用までを意識した授業づくり～

### 教師の心得

- 1 5分以内をめやすとして、子どもが集中しているうちに課題を提示し、目標達成のための時間を確保する。
- 2 授業の中で、目的のある反復の場面を設定する。
- 3 何のために、どんな知識や技能を、どのように活用させるのか、具体的なイメージをもつ。



### めあて・学習課題・まとめ・振り返り

#### 学習課題

○目標（ねらい）を達成するために、本時で考えさせる問い。



#### 問いや思い、願いを引き出すために

- 「やってみたい」「なぜだろう」と子どもの課題意識を引き出せるように、問いの形で学習課題を提示しよう。
- 子どもとの対話を大切にしよう。
  - ・生活経験や既習事項の想起・初発の感想 など

#### めあて

- 目標（ねらい）を児童生徒の立場で示したもの
- 「何が」「どのように」できればよいかわかるもの



#### めあてが子どものものになるように

- 見通しがもてるように焦点化して設定しよう。
- 子どもの思考の流れを意識して設定しよう。

#### まとめ

- めあてや学習課題の答え
- 本時に子どもにつかませたいこと



#### 確かな力が定着するように

- めあてとまとめが整合しているか確認しよう。
- 発達段階に応じて、段階的に子どもが自らまとめられるようにしよう。
- 本時のキーワードや用語を用いるなどの条件を設定しよう。

#### 振り返り

- 自分の学びを立ち戻って思い起こし、振り返ること



#### 学び続ける意欲を育むために

- 「どんなことが分かったか」「何がわからなかったか」「どんな学び方をしたか」「成長したことは何か」「友達から学んだことは何か」など、振り返りの視点を示そう。
- 意欲を育み、次の課題につながるようにしよう。

★子どもの課題意識を引き出すことができるのであれば、無理にめあてを提示する必要はありません。



## 対話し、学び合える集団を育てる授業をつくります

～子ども同士の対話、子どもと教師の対話、課題との対話で深まる学び合い～

### 教師の心得

- ・ 1 分からないことが「分からない」と言える学級集団づくりを大切にする。
- ・ 2 つけたい力を明確にし、その力をつけるためにペア学習やグループ学習を行う。  
(目的意識を明確にしたペア学習やグループ学習の対話)
- ・ 3 子どもの意見をつなぐ支援を行う。



### 聴き合い、学び合える集団を目指して

#### 【授業前に教師が行うこと】

- ・ つけたい力を明確にする。
- ・ どの場面でどんなことを対話させるのかを、子どもの実態、教材、つけたい力を総合して考える。

#### 【授業中に教師が行うこと】

- ・ 対話ができているペアやグループへ関わる。(対話ができているペアやグループには口を挟まない)
- ・ 困っている子どもには、「隣の人に聴いてごらん」と促す。  
(「教え合う」ではなく「学び合う」姿勢を大切にする。)
- ・ 子どもの意見をつなげる言葉かけを行う。

例・「〇〇さんの意見を自分の言葉でもう1回言ってみよう」

- ・ 「〇〇くんの意見をどう思う？」
- ・ 「〇〇さんの言いたいことは何？」 など

- ・ ペアやグループで答えを一つにすることを求めない。
- ・ ペアやグループで対話した内容をもとに、個人で考える時間を保障する。

#### 【授業後に教師が行うこと】

- ・ 子どもにつけたい力がついたか、子どもの学びの事実から、自分のかかわりや手立て、授業の流れなどを振り返る。

#### 【日常的に教師が行うこと】

- ・ 「聴く」ことを大切にする。
- ・ 聴いていない様子が見られた時には、授業を止めてでも聴くことを鍛える。
- ・ 「分からない」「教えて」と隣の人に尋ねられる関係をつくる。
- ・ 聴いてよかった、話してよかったと思えるよう、価値付けをする。
- ・ 学び合いができる座席を工夫する。  
(グループなら4人まで。男女混合など)

#### ペア学習やグループ学習で雑談が始まってしまったら…

課題が簡単すぎる。子どもが夢中になれる課題の提示をしよう！



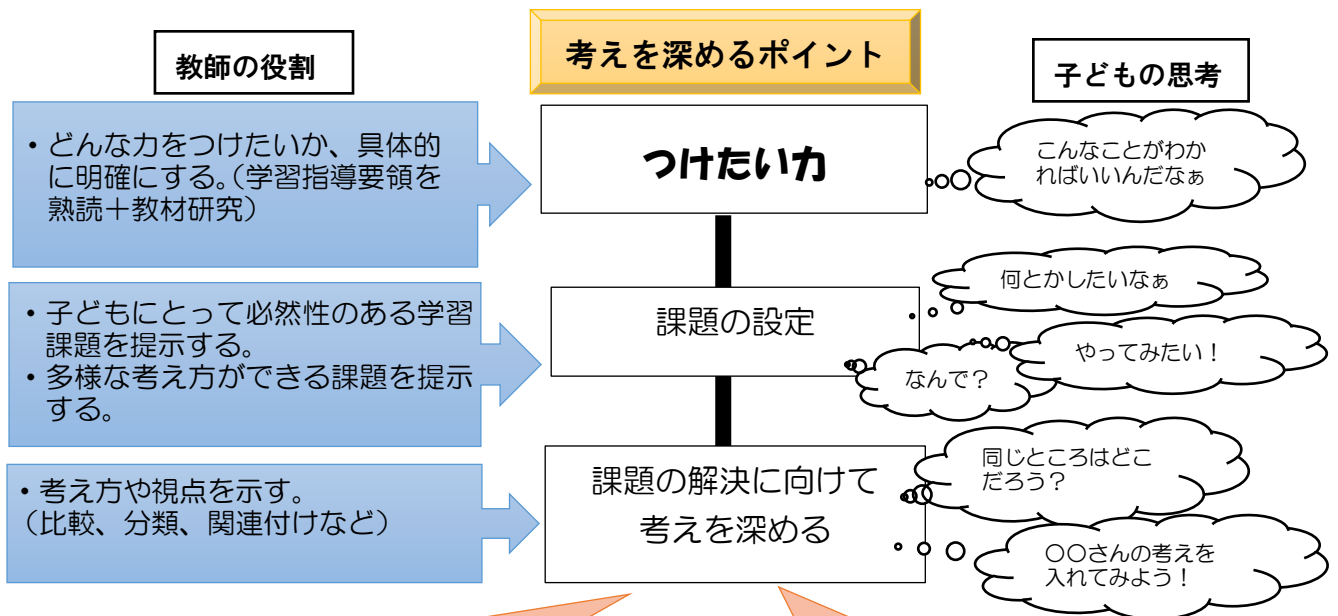


## 考えが深まる授業をつくります

～疑問や発見は宝物 思考を深める問いづくり～

### 教師の心得

- 1 子どもが主体的に学べる（何でだろう、やってみたいなど）課題を吟味する
- 2 比較、分類、関連付けなど、考え方や視点を明確にする。
- 3 子どもの学びの状況を把握し、実態に応じた授業展開を行う。



#### 【教師が事前に準備しておくべきこと】

- 目指す子どもの姿を具体的にする。
- 子どもの実態や特性を把握し、子どもの考えを予想しておく。つまずきも予想しておく。

#### 考えを深める教師の『声』とは？

- 大きすぎない声考えを深める。
- 発問の後の間を大切にする。
- 子どもの意見をリボイスしない。

#### 【教師が授業中にやるべきこと】

- 子どもに考えさせる（委ねる）姿勢をもつ。また、子ども同士で解決できるよう、考えをつなげる。
  - 子どもの実態を即座に把握し、つまずきや進度に応じて対応する。
- ※困ったら・・・「つけたいカ」に立ち戻り必要な指導や支援等を行う。



## 互いに見合い、学び合って、授業をつくります

～オール安芸高田研究協議スタイルでチャレンジ！！～

### 教師の心得

- 1 互いに授業を見合い、今以上に授業の質を高めようとする向上心をもつ。
- 2 同僚性を発揮し、互いに学び合う教師集団となる。
- 3 中学校区ごとに小中連携を行い、指導の系統性や情報の共有を図る。



### 授業で伸びる

キーワード

『**授業をひらく 授業を見る 授業を語る**』

### 『授業で伸びる』心得

- 一 自分の授業を同僚の先生に月に一回以上は見てもらおう。
- 一 同僚の先生の授業を月に一回以上は見よう。
- 一 授業について、職員室で同僚の先生と毎日話をしよう。
- 一 同じ学校で、授業について困ったら相談できる先生をつくらう。
- 一 授業について困っている同僚がいたら、相談される先生になろう。

(2) 学習者の学びに視点を置いた、オール安芸高田研究協議スタイルの推進

**授業参観のポイント**

○ 授業研究では、子どもの学びの事実を見取る。

- ・子どもの表情や学びの様子を見るために、できるだけ教室の前や横から見る。
- ・どこで学びが生まれたか、どこで学びが滞ったかを考えながら参観する。
- ・困り感のある子どもが何をしているか、周りの子どもがどのようにかかわっているかを見る。

○ 授業の中で、ねらい(めあて)が達成されていたかを見取る。

- ・授業の中で、授業者が「聴く・つなぐ・もどす」をどのように展開していたかを見取る。
- ・つまずきに応じた手立てをどのように講じていたかを見取る。

**研究協議のポイント**

- ①事前に授業のポイントを参観者に伝えておく。
- ②見取った学びの事実を子どもの名前で語る。
- ③教師のどのような手立てによって学びが生まれた、学びが滞ったのかを語る。
  - ・どういう意味で良いと思ったか。
  - ・子ども同士の学びがどのようにつながり、その結果どのように深まったか。
- ④どのような手立てが必要だったかを語る。
- ⑤授業から、自分が学んだこと、次に生かしていくことを語る。



子どもの学びが見える教師は、子どもとともに学ぼうとしている教師、子どもから学べる教師です！





## 施策2 個別最適な学びの推進～多様な学びの場の提供～

### (1) 特別支援教育の充実

まずは、ユニバーサルデザインを意識した誰もが分かりやすい授業を行う。その上で、一人一人の児童生徒のつまずきや困り感に応じた個別の手立てを充実させていくことで、全ての児童生徒の学びを保障する。

#### ○児童生徒のつまずきの把握と手立ての充実

全ての教科等において、教師が児童生徒のつまずきに気付き、児童生徒の実態や学習環境などから学習面におけるつまずきの要因を見立て、適切な指導・支援を検討していくようにする。



「計算する・推論する」の実態チェックシート

項目	内容	認知等の特性	つまずき(△)
数 概 念	順番に、数詞を言うことができ、何番目かが分かるか。	継次処理	
	たくさんの物を大まかに分けることができるか。	同時処理 視空間認知	

〔気になる生徒の支援につなげるチェックリスト  
広島県教育委員会（平成30年）〕

〔研究報告書 広島県立教育センター（平成26年）〕

#### 【事例：つまずきの要因とその手立て】

##### 児童の実態

- ・漢字が覚えられない。



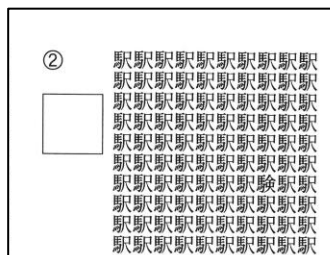
##### つまずきの要因

- ・漢字の形がとりにくい。
- ・細かい部分を見ることが難しい。
- ・視知覚認知の弱さがある。

(WISC 検査から)

##### 手立て

- ①間違い探しを行い、部分をよく見て、似た漢字を見分けることができるようにする。



<ワークシート（間違い漢字探し）>

- ②なぞり書きの一部分を消して、正しい漢字と比べさせる。1画1画に注目して書くことができるようにする。



<ワークシート（注目して書こう）>

## (2) 不登校児童生徒への支援

保護者や関係機関と連携を図り、心理や福祉の専門家の助言や援助を得ながら、社会的自立を目指す観点から、一人一人の児童生徒の実態に応じた情報の提供や支援を行っていく。

不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。また、不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を「問題行動」と判断してはならない。加えて、不登校児童生徒が悪いという根強い偏見を払拭し、学校・家庭・社会が不登校児童生徒に寄り添い共感的理解と受容の姿勢をもつことが、児童生徒の自己肯定感を高めるためにも重要である。

小学校 中学校学習指導要領 解説 総則編（平成29年 7月）

不登校児童生徒の居場所づくりと将来的な自立に向けて、適応指導教室あすなろでの支援を充実させるとともに、フリースクールとの連携も図っていく。

### ◎「適応指導教室 あすなろ」の目的

「学校へ行きたくてもなかなか行くことができにくい児童生徒」を対象に、不登校に係る相談や学習支援、人間関係づくりの指導・支援を行うとともに、居場所づくりを進めていく。

学校と連携し、基礎基本を中心とした学習タイムや、自立活動、体験活動を通して心の安定を図り、児童生徒の自立心や社会性を養いながら、生活リズムをつかませ、学校復帰や社会的自立への力と意欲を高める。

### ◎フリースクールとは

不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設のこと。「学校に登校する」という結果のみを目標とするのではなく、不登校児童生徒の居場所をつくとともに、児童生徒の社会的自立に向けた支援を行っている。

〔適応指導教室 あすなろ〕



### (3) 日本語の習得に困難のある児童生徒への支援

個々の児童生徒の実態に応じて学校生活への適応を図るとともに、日本語を用いて学校生活を営み、学習に取り組むことができるよう、一人一人の日本語の能力を的確に把握し、きめ細かな指導を行う。学校生活に必要な基礎的な日本語の習得のための指導や各教科等の指導と、学習のために必要な日本語の習得のための指導を統合して行う。合わせて、児童生徒同士の関わりによる学びを大切に、周りの子どもたちと該当児童生徒とのつながりをつくるよう支援する。

#### 【外国人児童生徒等の受入の流れ】

##### <学校の受入れ体制づくり>

- 校内での共通理解
- 日本語指導体制づくり
- 地域との連携体制づくり



##### <受入れ時面接>

- 管理職との連携
- 言語に対する配慮
- 学校についての情報提供
- 児童生徒、保護者についての情報の収集



##### <学級での受入れ>

- ①学級の温かな雰囲気づくり・外国人児童生徒等に対する初期指導
- ②学級での人間関係についてのきめ細かな配慮
- ③個性を認め合う、受容的な学級づくり
- ④相互理解を深めさせ、学級の国際化を進める



<外国人児童生徒受入れの手引き【改訂版】文部科学省>



#### 参考資料

- 「外国人児童生徒等の教育のための情報検索サイト かすたねっと」文部科学省検索サイト トップページアドレス <https://casta-et.mext.go.jp/>  
「多言語の学校文書」や「外国人児童生徒等教育のための教材」を、地域の実践事例として検索することができます。また、多言語の学校関係用語を検索したり、学校の予定表を多言語で作成したりすることもできます。
- 外国人児童生徒受入れの手引【改訂版】 文部科学省（手引がダウンロードできます）  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm)  
手引には、外国人児童生徒等教育に関わる、日本語指導担当教師、在籍学級担任、管理職等、様々な立場で、どのような視点を持ち、どのような取組を行うことが必要なかが示されています。

## 施策3 ICTの活用

### (1) ICTを効果的に活用した授業づくり

- 次の視点で、ICTを活用した授業づくりに取り組む。
  - ・どの場面でICTを活用するのか（単元や題材、または1時間の授業の中で、だれが活用するのか（教師が活用するのか。児童生徒が活用するのか。）など、教科のねらいが達成できるよう事前に計画を立てる。
  - ・教材を提示するタイミングや見せ方を工夫する。
  - ・ICTを活用して効果があったか振り返り、今後の授業づくりにいかす。

### (2) プログラミング教育の推進

各教科等の特質に応じて、「プログラミングを体験しながら、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力」を身に付けるための学習活動を計画的に行う。

#### 【プログラミング的思考の育成】

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力

### (3) 情報モラル教育の推進

各教科等の特質に応じて、教科横断的な視点から、次のような学習活動を通じて、児童生徒に情報モラルを確実に身に付けさせるようにする。

- 情報発信による他人や社会への影響について考える学習活動
- ネットワーク上のルールやマナーを守ることを考えさせる学習活動
- 情報セキュリティの重要性とその具体的対策について考えさせる学習活動



参考資料：「教育の情報化に関する手引」（文部科学省 令和元年12月）

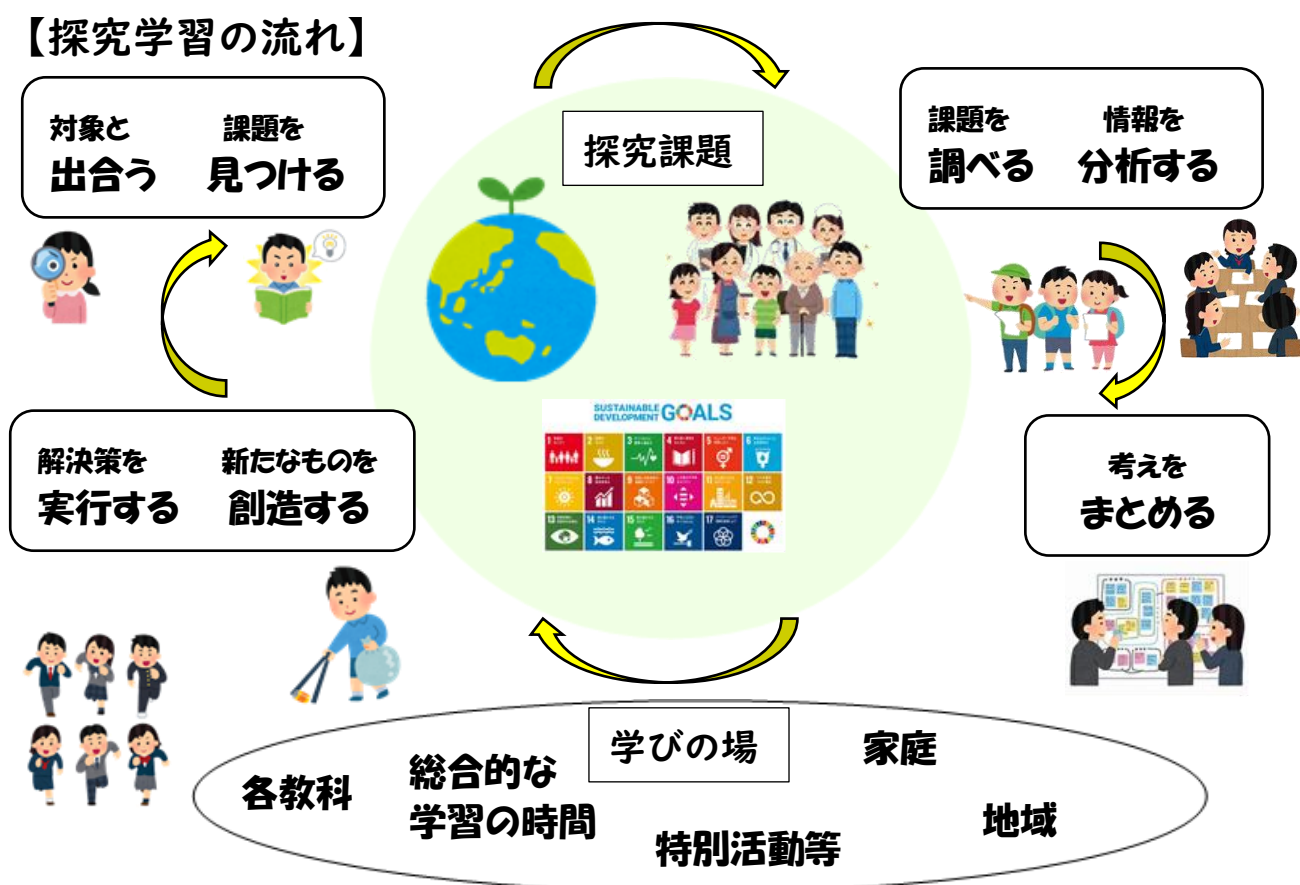
## 施策4 「未来チャレンジ 探究学習」の充実

児童生徒がしっかりと現実を見つめ、実生活、実社会の「答えがない問い」に本気で取り組む学習を推進する。課題を解決する過程では、解決できないことも出てくる。それでもなお、子どもたちが考えること、関わること、実践することをやめない、自分らしい答えを見出すことができる学習を進めていく。

### 【目的】

探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自分事として考え、主体的に判断・選択し、人とつながりながら課題を解決する力を育てる。

### 【探究学習の流れ】



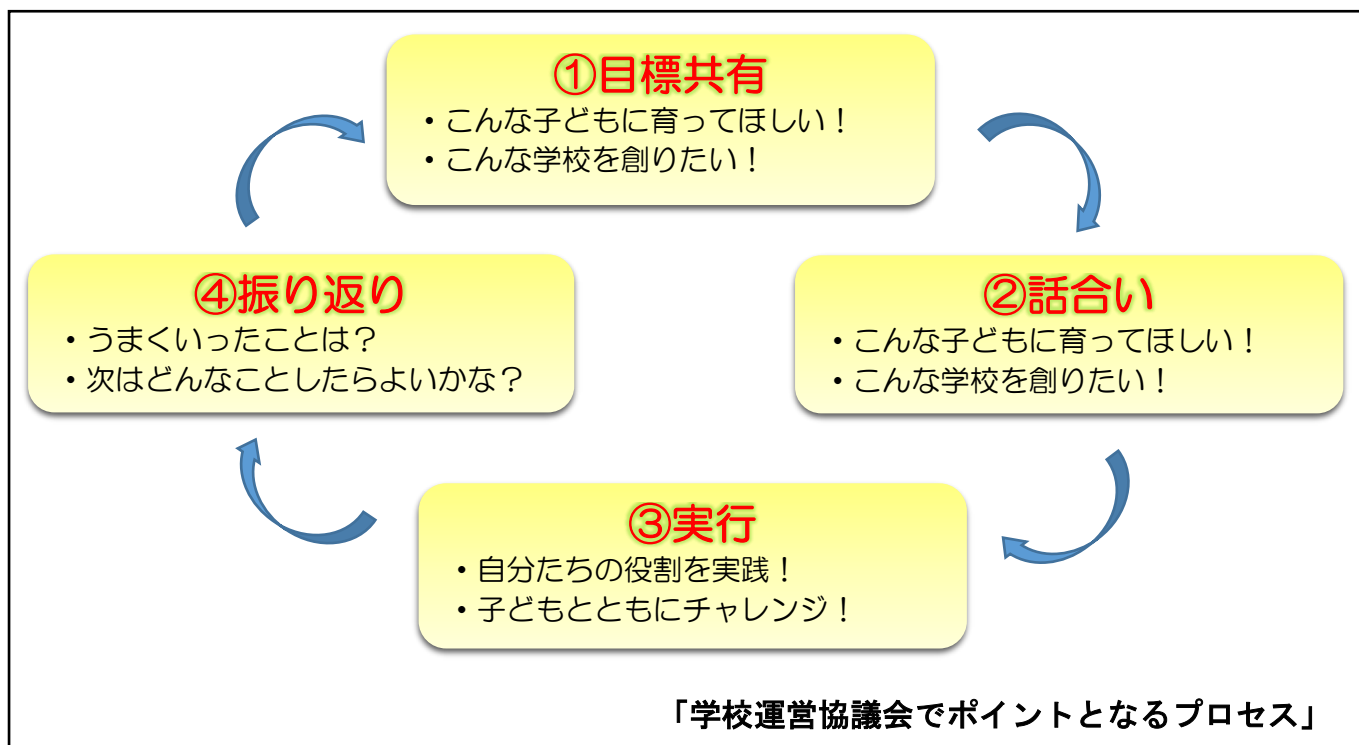
### 【探究課題の例】

- 横断的・総合的な課題  
国際理解、環境、福祉・健康など、持続可能な社会の実現にかかわる課題
- 児童の興味・関心に基づく課題  
キャリア、ものづくり、生命など、よりよい自己実現に深くかかわる課題
- 地域や学校の特色に応じた課題  
地域の伝統、文化、行事、生活習慣、経済、産業など、よりよい郷土の創造にかかわる課題

### 第3章 家庭・地域・学校の連携による教育

～コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を通して～

安芸高田市では、家庭・地域・学校が連携し、すべての大人が積極的に子どもに関わり、子どもを慈しみ育てる地域ぐるみの『協育』を進めている。コミュニティ・スクールは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる仕組みである。学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校と保護者、地域住民が一体となって子どもたちの豊かな成長を支えていく。



学校運営協議会では、学校運営の基本方針を承認したり、学校や地域の課題解決に向けて話し合ったりする。

構成メンバー【例】保護者 地域住民  
校長 教職員 学識経験者 など



〔学校運営協議会の様子〕



〔民生児童委員と花植の様子〕

## 参考資料

### 1 第1版 安芸高田市向上戦略 目標指標に係る評価

目標指標	目標値	現状値 (%) (令和元年度) 【県平均比較】
全国学力・学習状況調査における正答率 <小学校> ①国語 ②算数 <中学校> ③国語 ④数学 ⑤英語	県平均 +10ポイント	① 70【+4】 ② 66【-2】 ③ 79【+5】 ④ 60【±0】 ⑤ 55【-1】
広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査における肯定的回答の割合 ①「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」 ②「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」 ③「授業では、自分の考えを積極的に伝えています。」 ④「授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。」	① ①90 ②75 ② ①65 ②60 ③ ①80 ②65 ④ ①80 ②70	① ①90.2【+9.5】 ②77.9【+6.6】 ② ①71.6【+21.2】 ②49.8【+7.8】 ③ ①74.9【+10.5】 ②68.7【+7.4】 ④ ①82.4【+11.6】 ②75.6【+7.6】

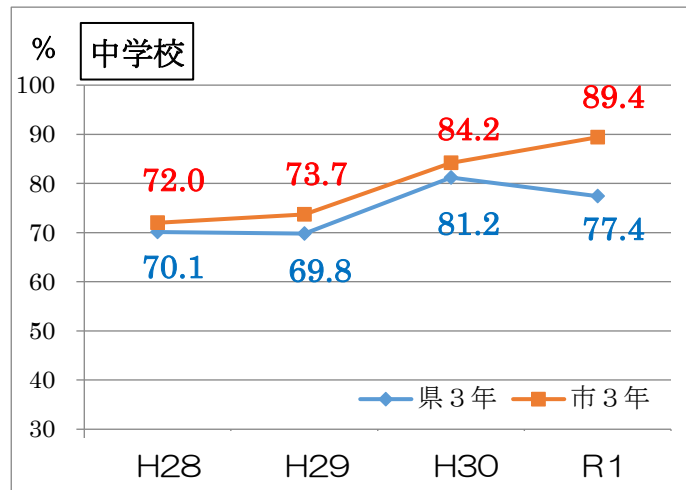
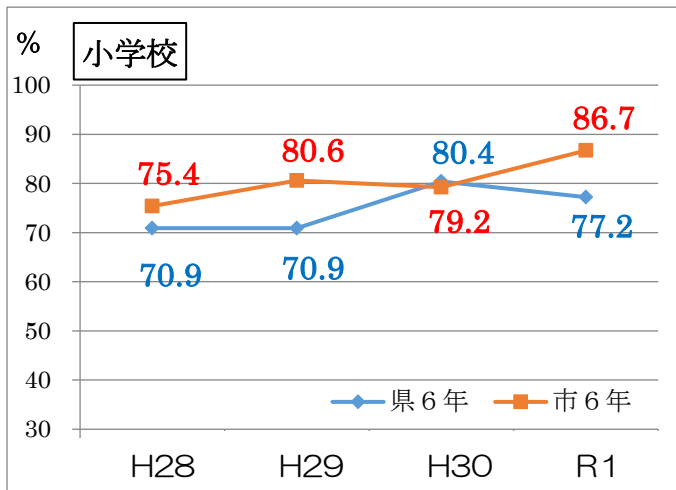
第1次安芸高田市学力向上戦略で設定した指標に対する実績をみると、全国学力・学習状況調査の結果において、小学校国語、中学校国語は県平均を上回りましたが、小学校算数、中学校数学、英語については、県平均と同等もしくは下回りました。全ての教科において、県平均+10ポイントには達していません。

一方で、広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査結果から、「主体的な学び」に係る質問に対する肯定的評価はほぼ目標値を上回っていることから、児童生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりが進んでいるといえます。しかし、小学

校では、「自分の考えを伝える」についての質問、中学校では、「資料集め」についての質問については、目標値を下回っており、さらなる授業改善が求められます。

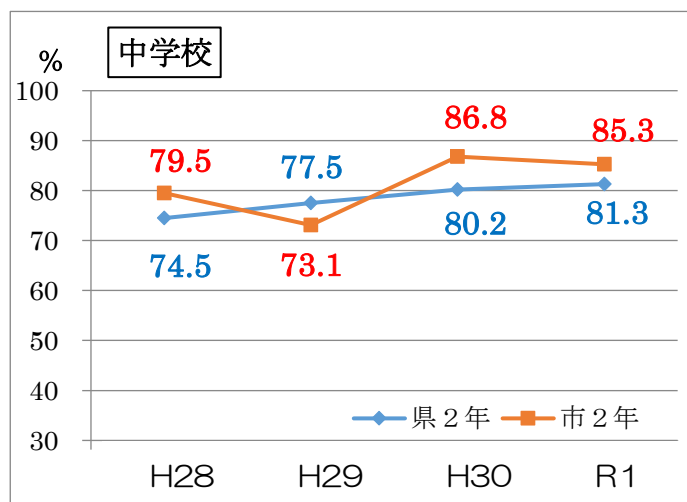
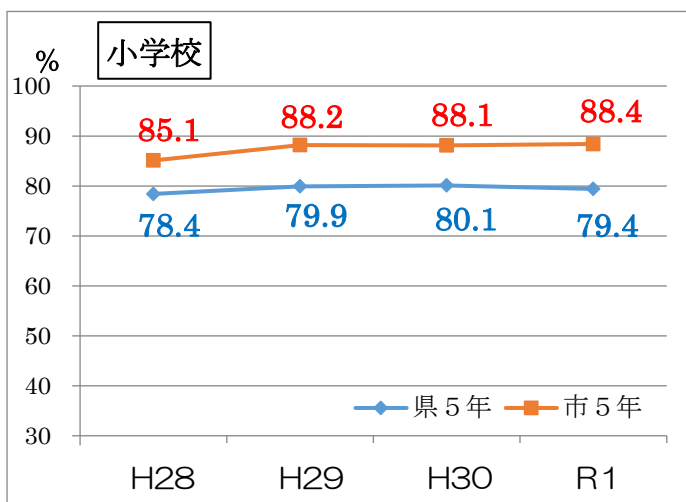
○「全国学力・学習状況調査」における児童生徒質問紙項目 経年比較

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」



○「広島県『基礎・基本』定着状況調査」における児童生徒質問紙項目 経年比較

「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」



グラフをしてみると、平成28年度から「学び合い」にかかる質問項目について、児童生徒の肯定的評価が増えています。全ての児童生徒の学びを保障するために「学び合い」を仕組むことで、児童生徒に良さを実感させることにつながったと考えます。引き続き、「学び合い」を授業の中に位置づけ、対話的な学びを推進していきたいと思ひます。



## 2 国の動向

### ◎〔第3期教育振興基本計画〕（平成30年6月15日閣議決定）

#### ●個人と社会の目指すべき姿

（個人）「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成」

（社会）「一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会（地域・国・世界）の持続的な成長・発展」

#### ●今後の教育施策に関する基本的な方針

「夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」

「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」

「生涯学び、活躍できる環境を整える」

「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティーネットを構築する」

「教育政策推進のための基盤を整備する」

### ◎〔新学習指導要領の方向性〕（平成29年7月告示）

#### ●改訂の基本的な考え方

・子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。

・現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。

・主体的・対話的で深い学びの授業改善を進める。

・道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

### ◎Society 5.0に向けた人材育成

#### ●Society 5.0時代の教育・学校・教師の在り方

「①読解力や情報活用能力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要」

「教師を支援するツールとして先端技術を活用し、①地理的制約を超えた多様な他者との協働的な学び、②一人一人の能力、適性等に応じた学び、③子供たちの意欲を高めやりたいことを深められる学びを実現」

「子供たちの学びの変化に応じた資質・能力を有する教師、多様性があり、変化にも柔軟に対応できる教師集団」

「『チームとしての学校』の推進」

## 参考文献

- 『平成31年度広島県教育資料』広島県教育委員会
- 『日本語指導ハンドブック』（平成23年）東京都教育委員会
- 『外国人児童生徒受入れの手引き』（2019年）文部科学省
- 『教育の情報化に関する手引』（令和元年）文部科学省
- 『教育ジャーナル2015 7月号』（2015年）学研
- 『「対話的学び」をつくるー聴き合い学び合う授業』（2018年）石井順治 ぎょうせい
- 『中学校における対話と協同』（2011年）佐藤雅彰 佐藤学 ぎょうせい
- 『子どもも教師も元気が出る授業づくりの実践ライブ』（2009年）佐藤暁 学研
- 『教える空間から学ぶ合う場へ』（2012年）牧田秀昭 秋田喜代美 東洋館出版社
- 『授業を磨く』（2015年）田村学 東洋館出版社
- 『中学校「荒れ」克服10の戦略』（2015年）監修・著 石井英真 学事出版
- 『変わる学力変える授業』（2015年）高木展郎 三省堂
- 『授業の見方』（2017年）澤井陽介 東洋館出版
- 『教師の学び方』（2019年）澤井陽介 東洋館出版
- 『個別最適化の教育』（2019年）西川 純 学陽書房
- 『2020年からの新しい学力』（2019年）石川一郎 SBクリエイティブ
- 『2020年からの教師問題』（2017年）石川一郎 ベスト新書
- 『学校の「当たり前」をやめた。』（2018年）工藤勇一 時事通信社

### 安芸高田市教育委員会学校教育課

〒731-0592

広島県安芸高田市吉田町吉田761番地

TEL：(0826) 42-5628

FAX：(0826) 42-4396

HP アドレス <http://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/kyouiku/>

メールアドレス [gakkohkyohiku@city.akitakata.jp](mailto:gakkohkyohiku@city.akitakata.jp)